地域住民による里山管理に関する研究（Ⅱ）

－都市住民の訪問に関する地域住民の意識構造－

山瀬　敬太郎

Keitaro YAMASE

Studies on the management of rural forests by rural residents（Ⅱ）
－The overall framework of the intentions of rural residents towards the visitation by urban residents－

要旨：山瀬敬太郎：地域住民による里山管理に関する研究（Ⅱ）－都市住民の訪問に関する地域住民の意識構造－兵庫森林技研報 第45号：12～16，1998　都市住民の訪問に関する地域住民の意識構造を明らかにするために，平地地域と中山間地域において意向調査を実施した。意向データを数量化理論Ⅲ類によって分析した結果，地域によって，都市住民の訪問がもたらすメリットについて，その価値観に差がみられるとともに，年齢によって，都市住民の訪問によるメリット面あるいはデメリット面に注目する違いがみられた。

Ⅰ　はじめに

近年，里山地域はアメニティ空間やレクリエーションの場として注目されており，都市部の住民が訪問する機会が増えている。一方，里山地域に居住する住民にとって，都市住民が訪問する現象は目新しく，戸惑いも多いものと考えられる。そこで，今後一層増えるであろう都市住民の訪問によって，都市地域と里山地域の住民の交流を深め，ともに里山の管理や保全を行っていくために，現在，地域住民が都市住民の訪問についてどのように考えているかを把握するための意向調査を行った。

Ⅱ　調査方法

対象地域は平地地域として兵庫県姫路市山田町南山田地区（以下，南山田地区），中山間地域として兵庫県美方郡美方町（以下，美方町）とした。ここでいう地域区分は，農林統計上の定義を参考にし，平地地域とは耕地率20％以上で森林率50％未満の地域，中山間地域とは耕地率20％未満で森林率50％以上の地域として，前述した地域を選定した。

1994年8月から1995年1月にかけてそれぞれの地域の全世帯を対象とし，各世帯の代表者一人に対して実施した。配布世帯数は南山田地区が116世帯，回収世帯数は107世帯，回収率は92.2％，美方町がそれぞれ863世帯，526世帯，61.0％であった。調査票に記された全質問項目は，(a)里山二次林の整備方向，(b)居住する地域への都市住民の訪問について，(c)森林の公益的機能に対する認識についての3つのグループに分類できる。(c)の質問項目の分析については平成8年度日本造園学会支部大会で報告しており(2)，今回の分析では(b)の質問項目のみを用いた。質問項目の単純集計結果を吟味すると，反応数分布の偏った質問や概念的に重複したカテゴリーがみられたため，各質問項目ごとにカテゴリー統合を行い，最終的に4項目17カテゴリーを選定し，これを解析データとした。その項目は，①都市住民による里山地域での活動形態について，②回答者自身が提供できるサービスについて，③都市住民の訪問によるメリットについて，④都市住民の訪問によるデメリットについてである。なお，今回の解析手法として数量化理論Ⅲ類(1)を用いた。

Ⅲ　結果と考察

1．地域住民の意向の要約

表－1は，後述する数量化理論Ⅲ類の分析結果を示しているが，同表の割合欄に，各カテゴリーに反応したサンプル数の割合（反応数÷回収世帯数×100％）を示した。以下にその特徴を示す（番号は上記の項目番号に対応する）。

①都市住民の地域での活動形態としては，地元の人達と交流（生活・文化・伝統）するが50.7％と高く，最も望ましい活動形態と考えられている。

②回答者自身の都市住民の訪問において提供できるサービスとして，最も反応数が高かったのは交流会に参加することで，40.0％であった。

③都市住民が訪問することによって期待されることとして，地域の環境整備が進むことで，50.4％であった。

④都市住民の訪問によって生じる問題として最も不安に

感じているのはゴミの問題で，60.8%であった。

2．数量化理論Ⅲ類の適用結果

数量化理論Ⅲ類とは，「個体（回答者に相当）と特性項目（各質問項目のカテゴリーに相当）間の反応関係を行列表現したデータが得られたとき，そのデータ行列をもとに類似する反応パターンが近接するように行と列を並べ替えて両者を同時に分類する手法」のことである。以下では先の4項目17カテゴリーに対して数量化理論Ⅲ類を適用し，得られた軸の解釈を中心に考察する。

表－1は数量化理論Ⅲ類の分析結果である。上位3軸の相関係数は第1軸から順に0.572，0.400，0.242であった。

1)第1軸－メリット・デメリット軸－

第1軸のカテゴリースコアのプラス側に，質問項目④に含まれるカテゴリーが全て含まれており，その絶対値は大きい。軸の解釈は特にこの点に注目してメリット・デメリット軸と呼ぶこととする。

2)第2軸－価値観軸－

第2軸のカテゴリースコアのプラス側には，地域にもたらされるメリットとして環境整備が進む，就労機会の増加，駐車場や入山料の収入が得られる，のカテゴリーが位置しており，マイナス側には，メリットとして交流がはかれるや回答者自らの交流活動への参加に関するカテゴリーが位置している。よって第2軸を価値観軸とし，

表－1　質問項目の回答結果と数量化理論Ⅲ類の分析結果

質問項目と回答	反応数	割合(%)	第1軸	第2軸	第3軸
1．あなたの住んでいる地域に、下記のことで都市住民が訪問することについてどう思われますか。					
1）雑木山の手入れや柴刈体験等の森づくりに参加する	225	40.3	−0.48	−0.23	1.39
2）森林浴やキャンプ等に参加する	215	34.0	−0.44	0.17	0.31
3）稲作に参加する	257	40.6	−0.77	−0.68	−0.33
4）地元の人達と交流（生活・文化・伝統）する	321	50.7	−0.60	−0.88	−0.83
5）地元の祭り等に参加する	278	43.9	−0.64	−0.96	−0.10
2．都市住民が訪問した際に、あなたは地域の一住民としてどのようなサービスが提供できると思いますか。					
6）都市住民との交流会に参加する	253	40.0	−0.62	−1.05	−1.10
7）交流活動等のスタッフとして参加する	197	31.1	−0.57	−1.06	−1.55
8）柴刈体験の場として、地域の雑木山を開放する	224	35.4	−0.23	−0.29	2.09
3．都市住民が、あなたの住んでいる地域を訪れることによって、次のようなメリットがあると考えられます。あなたは、次の項目についてどの程度期待されますか。					
9）都市住民を受け入れるために地域の環境整備が進む	319	50.4	−0.07	1.08	−0.09
10）就労の機会が増える	254	40.1	−0.39	2.65	0.19
11）駐車場や入山料等の収入が得られる	260	41.1	−0.50	1.06	−1.47
12）都市住民との交流が図れる	279	44.1	−0.48	−0.14	−0.78
4．都市住民があなたの住んでいる地域を訪れる機会が増えることによって、次のような問題が生じる可能性があります。あなたは次の項目についてどの程度不安を感じられますか。					
13）ゴミが散乱する	385	60.8	2.51	−0.06	1.99
14）地域の自然環境や景観が破壊される	323	51.0	2.48	−0.46	−0.32
15）地域の生活リズムが狂わされる	267	42.2	1.85	−0.28	−1.56
16）静けさがなくなる	262	41.4	1.64	−0.19	−0.14
17）交通事故が増える	312	49.3	2.17	−0.08	0.49

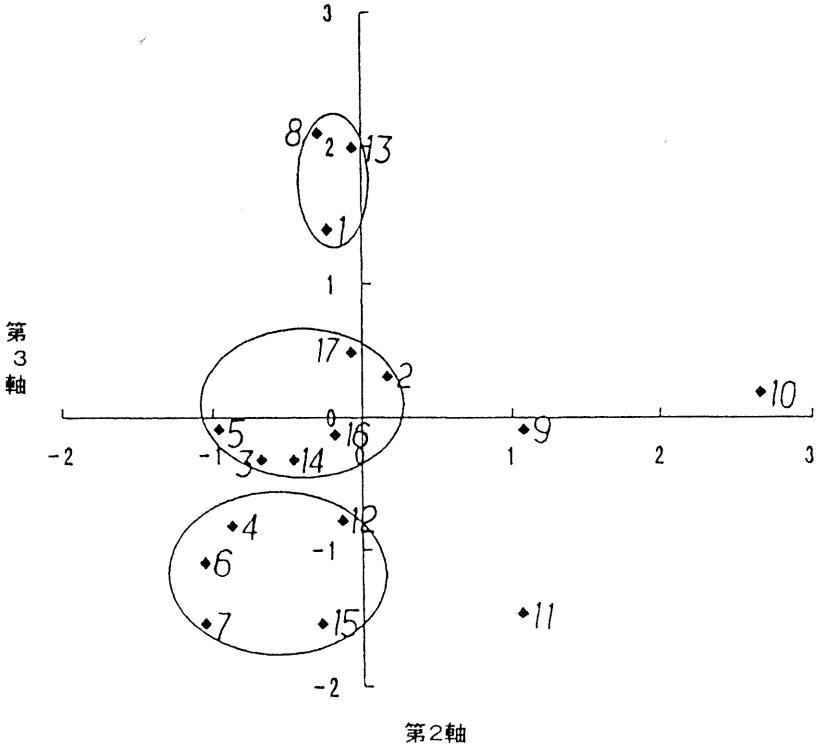
プラス側を物質的価値，マイナス側を心理的価値とする。3)第3軸－里山体験・交流体験軸－

第3軸のカテゴリースコアのプラス側は，都市住民の森づくりへの参加や地域の雑木山の開放などのカテゴリーの絶対値が高く，マイナス側は都市住民との交流を支持するカテゴリーが位置している。よって第3軸を体験軸とし，プラス側を里山あるいは農作業体験，マイナス側を交流体験とした。

3．各カテゴリーの空間的特徴

図－1は第2軸（横軸）と第3軸（縦軸）のカテゴリースコアをプロットしたものである。カテゴリー番号は表－1に対応している。

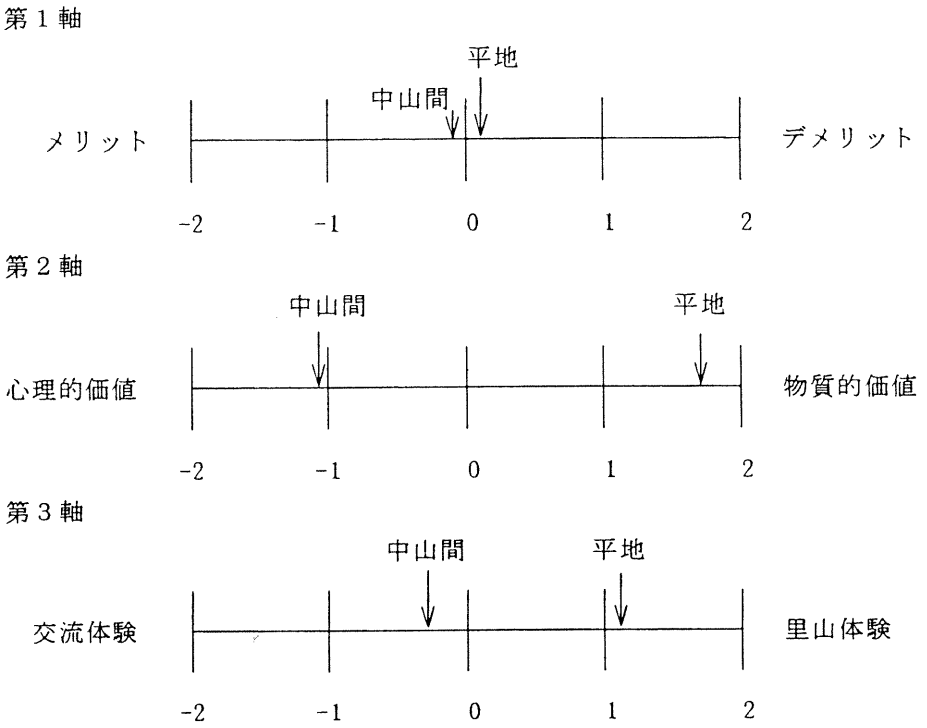
各カテゴリーの図－1上での空間的位置をみると，①森づくり活動や⑧地域の雑木山の開放と，⑬ゴミの散乱が比較的近い位置を占めており，森づくり活動や地域の雑木山の開放によって，ゴミの散乱を特に懸念していることが伺える。同様に，都市住民が②森林浴やキャンプ，③稲作，⑤地元の祭りに参加することによって，⑭地域の自然環境や景観が破壊され，⑯静けさがなくなる，⑰交通事故が増えたりすることを心配する傾向にあり，また，都市住民との④交流を深めることによって，⑮地域の生活リズムが狂わされることを心配する傾向にあった。



図－1　カテゴリースコアの分布（第2軸と第3軸）

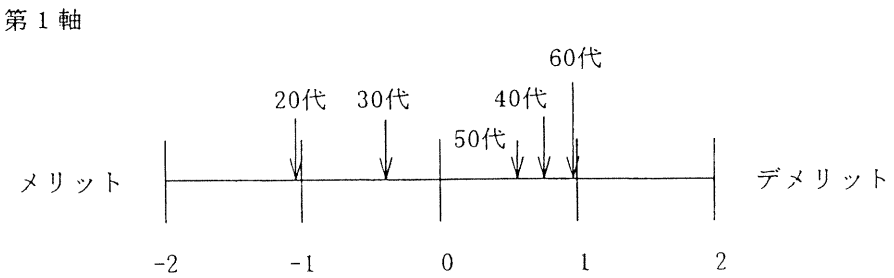
4．地域別、年齢別でみる特徴

回答者の属性，つまり地域別，男女別，職業別，年齢別に意識構造の特徴を分析した結果，地域別および年齢別について比較的明らかな差がみられたので，これらについて考察する。図－2はカテゴリースコアの地域別平均値を示したものである。平地地域の南山田地区と中山間地域の美方町で差がみられたのは，第2軸の価値観軸で、平地地域では都市住民との交流によって物質的価値，つまり金銭的収入を得ようとする傾向がみられ，中山間地域では心の豊かさなどの心理的価値を重視する傾向がみられた。また第3軸の里山体験・交流体験軸については、平地地域では里山体験志向がみられた。一方、第1軸のメリット・デメリット軸では，平地地域と中山間地域との間に明らかな差はみられなかった。



図－２　カテゴリースコアの地域別平均値

次に図－３はカテゴリースコアの年齢別平均値を示したものである。地域別では差がみられなかった第1軸のメリット・デメリット軸について，若い年齢層では都市住民との交流によるメリットを期待する傾向がみられ，年輩の年齢層では，都市住民との交流によるデメリットについて不安感を感じている傾向がみられた。



図－3　カテゴリースコアの年齢別平均値

Ⅳ　まとめ

都市住民の訪問に対する地域住民の意向は，次のとおりである。

1．意向データに数量化理論Ⅲ類を適用して，その意識構造を明らかにした。その結果，都市住民の訪問によるメリット・デメリット軸（第1軸），物質的価値・心理的価値軸（第2軸），都市住民の活動形態による里山体験・交流体験軸（第3軸）の3次元より構成されていることがわかった。

2．活動形態とそれに伴う不安との関係では，森づくり活動とゴミの不安，森林浴・稲作・祭りと交通事故・環境破壊・静けさがなくなることに対する不安，交流活動と生活リズムが狂わされることに対する不安との結びつきが比較的強くみられた。

3．平地地域の住民は，都市住民を受け入れるための基盤整備が進むことや，就労の機会が増えたり駐車場や入山料等の収入が得られることなど，物質的な価値を期待

している傾向が強い。

4．メリット・デメリット軸については，地域間の差よりも年齢による差がみられ，都市住民の訪問について，若い年齢層ではメリットの面に関心を持ち，年輩の年齢層ではデメリットの面を心配する傾向がみられた。

5．以上示したように，地域住民の意識構造は特定の属性によって説明できるものではなく，複雑であることがわかった。このことから，都市住民の訪問を推進するに当たっては，地域住民の意識構造をよく理解し，それら住民に対するきめ細かい配慮を行っていくことが必要と考えられる。

引用文献

(1)田中豊・垂水共之・脇本和昌（1984）パソコン統計解析ハンドブックⅡ　多変量解析編．403pp，共立出版，東京

(2)山瀬敬太郎(1996)里山管理に関する住民意識の地域比較．日本造園学会関西支部研究発表要旨集：17～18

（平成9年8月31日受理）